

寺田・長崎遺跡

—10・11次調査—

福岡県春日市下白水南所在遺跡の調査

春日市文化財調査報告書 第88集

2021

春日市教育委員会

序

中国の歴史書に記されている「奴国」の故地である福岡平野は玄界灘に面しており、古来より大陸との交流拠点として発展してきました。福岡平野の南部に位置する春日市は、100万都市である福岡市と接し、都市への利便性に恵まれているほか、ため池や緑などの自然が残る快適な住環境が整っており、現在11万人を超す市民の方が住まわれています。また、開発が進む中でも、国指定史跡須玖岡本遺跡をはじめ、国指定特別史跡水城跡、国指定史跡日押塚古墳や、国指定無形民俗文化財である春日の婿押し、嫁ごの尻たたきなど遺跡や伝統行事が残され、身近な暮らしの中に歴史遺産が溶け込むまちでもあります。

本市の北部には、多くの弥生時代の遺跡が発見されており、これら一帯の集落を「須玖遺跡群」と呼称しています。この須玖遺跡群では集落の他にも、中国の皇帝から金印を賜った「奴国」王墓や当時の先端技術である青銅器生産に関わる遺物や遺構が確認され、「奴国の王都」「奴国の首都」などと呼ばれています。

今回報告いたします寺田・長崎遺跡10・11次調査は、須玖遺跡群の南西側に位置します。過去の調査で弥生時代の堅穴建物跡などが見つかっており、集落を形成していたことがわかっています。今回の調査は対象面積が狭く、大きな成果をあげることはできませんでしたが、周辺の集落の様相を考察する上での知見を得ることができました。

本書が埋蔵文化財への理解を深めるとともに研究資料として末永く活用され、市民の皆さんにとって郷土の歴史に親しみを持ってもらうための一助となれば幸いです。

なお、最後になりましたが、発掘調査や発掘調査報告書作成に際しまして、御協力、御指導を賜りました方々に心からお礼申し上げます。

令和3年3月31日

春日市教育委員会
教育長 扇 弘 行

例言

1. 本書は2004年12月2日から同年12月21日にかけて春日市教育委員会が実施した共同住宅建設に伴う寺田・長崎遺跡10次調査と、2019年2月3日から同年3月5日にかけて春日市教育委員会が実施したガソリンスタンド及び店舗建設に伴う寺田・長崎遺跡11次調査の報告書である。
2. 発掘調査及び報告書執筆は、10次調査を井上義也が、11次調査を熊埜御堂早和子が担当した。
3. 遺構の実測は、10次調査を井上が、11次調査を井上、熊埜御堂、沼山旅羽（福岡大学）が行い、製図は、吉田薫、吉村美保が行った。
4. 遺物の図面作成は、10次を織田優子、片多浩美、久家春美、11次を熊埜御堂、吉田、製図は10次を織田、片多、11次を吉田が行った。
5. 掲載写真のうち、遺構については10次を井上が、11次を熊埜御堂、(有)空中写真企画が撮影し、遺物は(株)タクト・西村新二氏が担当した。
6. 本書の遺構実測図に用いた方位は座標北である。
7. 遺物はすべて奴国の丘歴史資料館にて保管している。
8. 本書の編集は、熊埜御堂が行った。

本文目次

I	はじめに	1
1	調査に至る経過	1
2	調査の組織	2
II	位置と環境	4
III	10次調査の内容	7
1	調査の概要	7
2	遺構	7
(1)	土坑	7
(2)	掘立柱建物跡	10
(3)	ピット	10
3	遺物	11
(1)	土器	11
IV	11次調査の内容	15
1	調査の概要	15
2	遺構	15
(1)	土坑	15
(2)	掘立柱建物跡	15
(3)	ピット	18
3	遺物	19
(1)	土器	19
V	まとめ	21

図版目次

10次調査

図版 1	(1) 調査区全景 (東から)	図版 3	(1) 2号土坑完掘状態 (東から)
	(2) 調査区全景 (東から)	(2)	1号掘立柱建物跡 (東から)
図版 2	(1) 1号土坑土層 (北から)	(3)	P 3土器出土状態 (西から)
	(2) 1号土坑土器出土状態 (北から)	図版 4	10次調査出土土器
	(3) 2号土坑土層 (西から)		

11次調査

- 図版5 調査区全景（上が北）
図版6 (1) 1号土坑完掘状態（上が北）
(2) 2号土坑完掘状態（上が西）
(3) 1号掘立柱建物跡（上が北）
図版7 11次調査出土土器

挿 図 目 次

第1図	寺田・長崎遺跡周辺遺跡分布図	5
第2図	寺田・長崎遺跡位置図	6
第3図	寺田・長崎遺跡10次調査遺構配置図	8
第4図	1号土坑実測図	9
第5図	2号土坑実測図	10
第6図	1号掘立柱建物跡実測図	11
第7図	1・2号土坑出土土器実測図	12
第8図	ビット等出土土器実測図	13
第9図	寺田・長崎遺跡11次調査遺構配置図	16
第10図	1・2号土坑実測図	17
第11図	1号掘立柱建物跡実測図	18
第12図	1・2号土坑出土土器実測図	19
第13図	ビット等出土土器実測図	20

表 目 次

表1	10次調査出土土器観察表	14
表2	11次調査出土土器観察表	20

I はじめに

1 調査に至る経過

10次調査は、平成12年7月6日に、春日市下白水南5丁目23番で共同住宅開発に伴う事前調査の依頼書が提出され、同月11日に重機による確認調査を行った。対象地に試掘溝を設定したところ、地表より80cm前後で茶褐色土を基本とする地山を検出し遺構を確認した。遺構は周辺地と同様、対象地のほぼ全面に広がっており、弥生時代を中心とする集落が広がることが想定された。

平成16年10月に、共同住宅建築の申請が出され、基礎が埋蔵文化財に影響を与えると判断されたため、対象地394㎡のうち174.16㎡を発掘調査することとなった。発掘調査は、地権者の負担において平成16年12月2日から12月21日まで行った。

11次調査は、令和元年10月12日に、春日市下白水南5丁目21、22番でガソリンスタンド及び店舗建設に伴う事前調査の依頼書が提出され、同月29日に重機による確認調査を行った。現地表面から110～140cmで鈍い褐色粘質土の地山を検出し、ピットなどの遺構を検出した。開発内容から、ガソリンスタンドのタンク部分と看板の基礎が埋蔵文化財に影響を与えると判断されたため、対象地3000㎡のうち111㎡を発掘調査することとなった。看板の基礎部分に関しては、2月5日に重機による掘削を行ったところ遺構が確認されなかったため、写真等で記録し埋め戻した。発掘調査は、地権者の負担において令和2年2月3日から3月5日まで行った。また、教育普及の一環で、2月27日に春日市立春日西小学校6年生135人を対象に現地説明会を行った。

なお、報告書作成は、令和2年度を中心に行った。



現地説明会の様子

2 調査の組織

春日市教育委員会が発掘調査を実施した平成16年度、令和元年度、報告書刊行の最終的な作業を行った令和2年度の体制は次のとおりである。

10次調査（平成16年度）

教育長 河鍋 好一

社会教育部長 矢野 文一

社会教育課長 白石 光治

【管理担当】

課長補佐兼統括係長 谷 芳文

事務主査 渡邊 康博（～6月）

事務主査 塩足 雅弘（～7月）

事務主任 松竹 典子

【文化財担当】

統括係長 丸山 康晴

統括係長 平田 定幸

技術主査 中村 昇平

技術主査 吉田 佳広

技術主任 森井 千賀子

技術主任 境 靖紀

技術主任 井上 義也

嘱 託 坂田 邦彦

嘱 託 河村 麻子

11次調査（令和元年度）

教育長 山本 直俊

教育部長 神田 芳樹

文化財課長 神崎 由美

【整備活用担当】

統括係長 高田 博之

主 査 森井 千賀子

主 査 大原 佳瑞重

主 査 飛永 宗俊

嘱 託 川畑 慶紀（～6月）

嘱 託 坂井 和彦（7月～）

嘱 託 和田 奈緒

【調査保存担当】

課長補佐 中村 昇平

主 査 吉田 佳広

主 査 井上 義也

主 任 山崎 悠郁子

主 事 熊埜御堂 早和子

嘱 託 川村 博

嘱 託 種生 優美

嘱 託 尾方 禎莉（～11月）

報告書作成（令和2年度）

教育長 扇 弘行

教育部長 神田 芳樹

文化財課長 高田 勘治

【整備活用担当】

統括係長 高田 博之

主 査 森井 千賀子

主 査 大原 佳瑞重（～6月）

主 査 飛永 宗俊

主 任 塚元 雅代（7月～）

会計年度任用職員 白石 光治（～6月）

会計年度任用職員 西尾 純司（7月～）

会計年度任用職員 和田 奈緒

【調査保存担当】

課長補佐 中村 昇平

主 査 吉田 佳広

主 査 井上 義也

主 任 山崎 悠郁子

主 事 熊埜御堂 早和子

会計年度任用職員 川村 博

会計年度任用職員 種生 優美

会計年度任用職員 下田 詩織

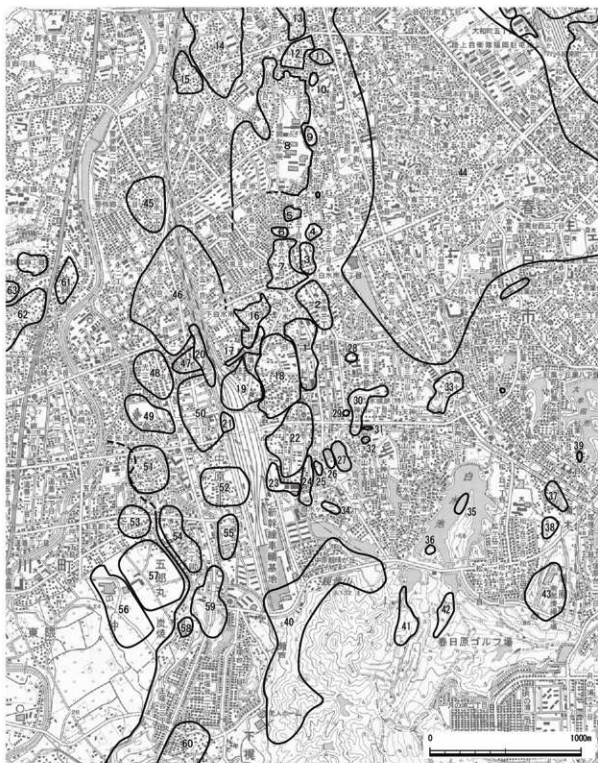
会計年度任用職員 田中 健

II 位置と環境

寺田・長崎遺跡は下白水南5丁目、上白水4～5丁目にかけて所在し、その範囲は南北580m、東西200m程度である。当遺跡は、春日丘陵西側の中段丘上に立地する。過去9回の調査の結果、遺跡の北部に位置する7・8次調査では、弥生時代中期の竪穴建物跡や土坑、溝などを確認しており、当遺跡で集落が形成されていたことがうかがえる。中でも特筆されるのは、7・8次調査で確認された直径10mを超える大形の円形竪穴建物跡である。また、7次調査の北東部、8次調査の北西部では甕棺墓や土壇墓、木棺墓などの墳墓群が確認されており、弥生時代中期後半から中期末にかけての墓地が形成される。一方、当遺跡の南部では、上白水館跡の周辺部と考えられる中世の遺構が確認されている。

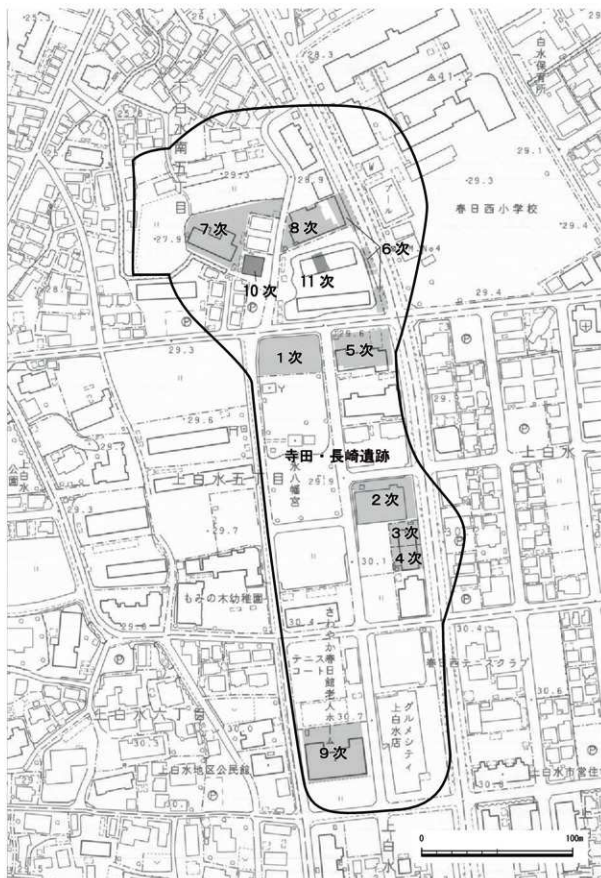
当遺跡の周辺は、旧石器時代から中・近世にかけて多くの遺跡が確認されている。旧石器時代や縄文時代の遺跡は、市域に点在しているが規模は小さい。集落については、粕田遺跡で縄文時代後期の竪穴建物跡が6軒確認されている。また、門田遺跡では縄文時代草創期の爪形文土器、原遺跡や百堂遺跡では早期の石組炉など貴重な遺構・遺物が確認されている。弥生時代は石尺遺跡、天神ノ木遺跡、日押塚遺跡、門田遺跡、辻畑遺跡で集落が、門田遺跡、原遺跡などで弥生時代中期を中心とした墓地が確認されている。特に門田遺跡は、弥生時代前期から末までの集落の動向を追える貴重な遺跡である。これらの遺跡は中段丘上及び低位段丘上に位置し、この一帯で集落の広がりを垣間見ることができる。古墳時代は、当遺跡から350m北西に日押塚古墳がある。古墳時代後期に築造され、周溝を含めた全長60m程度の前方後円墳である。昭和4年に盗掘にあったが、金製垂飾付耳飾をはじめ多くの遺物が発見されている。

古代になると、663年の白村江の敗戦と同時に唐・新羅軍の侵攻に対する備えとして、664年に水城が築造される。それに付随する形で小水城も築造されており、春日市域では、当遺跡の東南部に特別史跡である大土居水城跡と天神山水城跡が位置する。大土居水城跡2次調査で確認された長さ8mの木樋は特に注目され、水城でも木樋が確認されていることから、水城と小水城群が同じ目的で築造された防衛施設であると分かる。また、当遺跡から南東に位置するウトグチB遺跡では、2基の瓦窯が確認された。奈良県山田寺や和門廃寺出土例と文様構成が類似する筒尾や、軒丸瓦や軒平瓦など大量の瓦が出土しており、九州最古級の瓦の窯業遺跡として知られている。しかし、瓦の消費先と推定されている寺院は見つかっていない。中世以降、当遺跡に隣接する中白水遺跡では、四方を溝で囲まれた矩形の区画とその内部に夥しい数の柱穴や土坑、井戸が検出され、上白水館跡と推定される。また、その周辺で一屋敷内の建物群を構成していたとされる掘立柱建物跡が検出されている。主に貿易陶磁器、国産陶磁器、土師器などが出土しており、遺物の時期から13世紀ごろに成立し、18世紀まで存続したと考えられている。



- | | | | | | | | |
|-------------|------------|--------------|-------------|-------------|------------|-------------|-----------|
| 1 寺田・長崎通跡 | 2 石尺通跡 | 3 天神免通跡 | 4 重久通跡 | 5 下ノ原通跡 | 6 下立原通跡 | 7 古木通跡 | 8 赤木原通跡 |
| 9 川久保通跡 | 10 林通跡 | 11 上ノツツ通跡 | 12 湯田通跡 | 13 野藤通跡 | 14 白牧通跡 | 15 上白牧通跡 | 16 日野塚古墳 |
| 17 比類通跡 | 18 中白木通跡 | 19 門田通跡 | 20 船田通跡 | 21 下原通跡 | 22 天神ノ木通跡 | 23 原通跡 | 24 百常通跡 |
| 25 ウトグチC通跡 | 26 ウトグチB通跡 | 27 惣理地通跡 | 28 向野通跡 | 29 池ノ内通跡 | 30 天神ノ木通跡 | 31 池ノ内C通跡 | 32 池ノ内B通跡 |
| 33 大上居木通跡 | 34 ウトグチA通跡 | 35 白水地古墳群 | 36 イダ古墳群 | 37 輪ノ木通跡 | 38 原野谷古墳群 | 39 大牟田通跡 | 40 巖野山古墳群 |
| 41 高瀬通跡 | 42 イダ古墳群 | 43 池ノ原古墳群 | 44 須丸通跡群 | 45 豊永郷人通跡 | 46 豊永郷B通跡 | 47 アサモドシ通跡群 | 48 巖野山古墳群 |
| 49 今末・地倉通跡群 | 50 日新寺古墳 | 51 中野・ヒメタ通跡群 | 52 船木通跡群 | 53 中塚町ノ元通跡群 | 54 尾敷ノ内通跡群 | 55 合政通跡群 | 56 伊井川通跡群 |
| 57 仲通跡群 | 58 前田通跡群 | 59 長巻古墳群 | 60 カナガタ地通跡群 | 61 下野原通跡群 | 62 観音堂通跡群 | 63 伊井川通跡群 | 64 カイ子通跡群 |
| 63 下道古墳群 | | | | | | | |

第1図 寺田・長崎通跡周辺通跡分布図 (1/25,000)



第2図 寺田・長崎遺跡位置図 (1/2,500)

Ⅲ 10次調査の内容

1 調査の概要

寺田・長崎遺跡は、奴国の中心的な遺跡である須玖遺跡群が展開する春日丘陵西側の河岸段丘上に立地する遺跡である。南北580m、東西200m程度の遺跡で、弥生時代の集落、墳墓や歴史時代の集落が確認されている。

10次調査は、遺跡の北西部に位置する。重機で地表面から約80cm下げると茶褐色土を基本とする地山を検出した。調査前は駐車場、その前は畑であったようで、それに関連する溝状の攪乱等が見られるが、遺構は大きな破壊を受けてはいない。

発掘調査の結果、掘立柱建物跡1棟、土坑2基と多数のピットを確認した。1号掘立柱建物跡は1間×1間の規模で、柱穴からは弥生土器が出土した。1・2号土坑は弥生時代のものである。また、調査区の全体にピットが確認できるが、大型のピットは1号掘立柱建物跡以外にも調査区外まで延びる掘立柱建物跡がある可能性を示唆する。なお、ピットからは弥生土器だけではなく須恵器、土師器や陶磁器が出土した。

以上のことから10次調査では、弥生時代の集落を中心とする遺構を確認した。

2 遺構

(1) 土坑

10次調査では、2基の土坑を調査した。なお、本報告では、年報時に1号土坑としたものを2号土坑、2号土坑としたものを1号土坑として報告する。

1号土坑 (図版2-(1)・(2)、第4図)

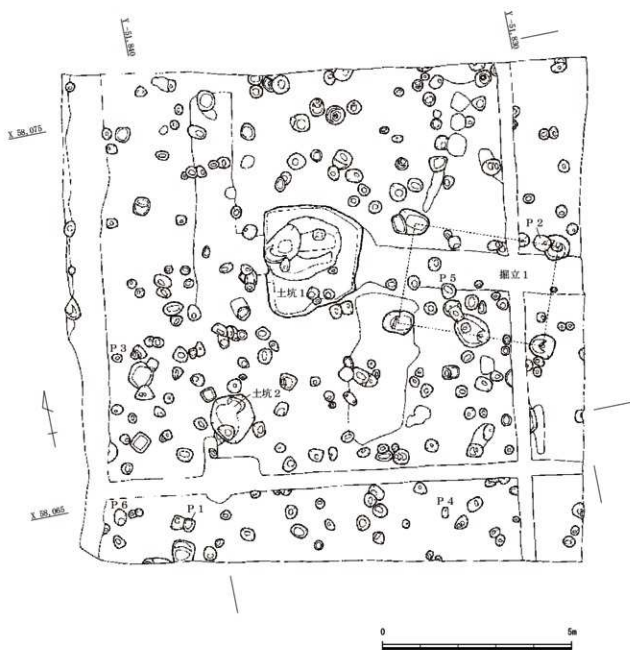
1号土坑は、調査区中央付近にあり、若干の攪乱を受ける。平面形が2.94×2.65mで台形に近い。床面は中心に向かって低くなり、西壁から中央部にかけて段を有して下がる。また、6つのピットがある。最深部の深さは約0.6m。

遺物は、弥生土器が出土する。

2号土坑 (図版2-(3)・図版3-(1)、第5図)

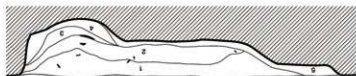
2号土坑は、調査区南西部にあり、平面形が1.33×1.18mの楕円形に近い。壁面の下部が砂礫を多く含むためであろうか、床面や壁面はやや重で、北東壁は抉れる。南西壁際には、大型のピットが掘られる。

遺物は、弥生土器と須恵器が出土する。須恵器は混入品であろう。

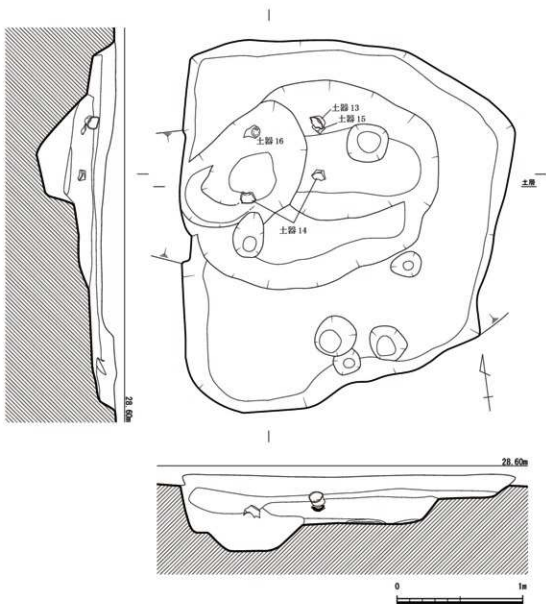


第3圖 寺田・長崎遺跡 10次調査遺構配置圖 (1/100)

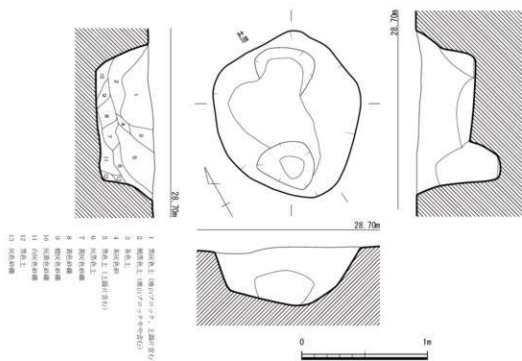
- 5 黄泥质土 (堆积土)
- 4 黄泥质土 (堆积土)
- 3 黄泥质土
- 2 黄泥质土 (原生土)
- 1 黄泥质土 (原生土)



明瞭



第4图 1号土坑实测图 (1/30)



第5図 2号土坑実測図 (1/30)

(2) 掘立柱建物跡

1号掘立柱建物跡 (図版3- (2)、第6図)

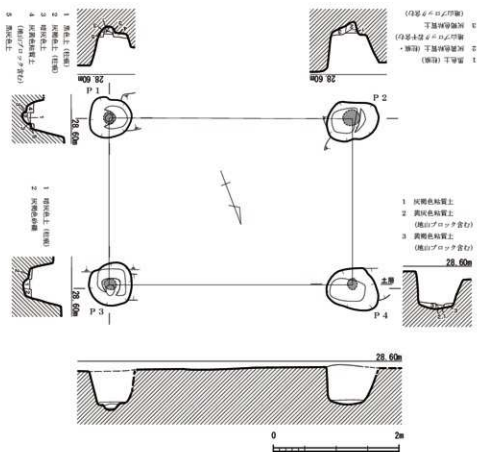
1号掘立柱建物跡は、調査区西部に検出した。柱穴の2つが後世の掘削により攪乱を受けるが、1間×1間の4本柱の建物で、桁行3.85m、梁間2.64mで、桁行方向はN-69°-Wをとる。柱掘り方は円形～楕円形を呈し、径0.7m前後、深さは最深の柱穴であるP2で0.8m。

遺物は、弥生土器小片が出土するが図化できるものはない。

(3) ピット (図版3- (3))

調査区の全面にピットを検出した。中には、直径が0.2m以下や0.5mを超えるもの、深さが0.4m以上のものもある。これらは掘立柱建物跡の柱穴の可能性はあるが、具体的に建物跡を確認するまでには至っていない。

半数以上のピットから土器小片が出土し、その殆どは弥生土器であったが、土師器、須恵器や陶磁器が出土するものもあった。



第6図 1号据立柱建物跡実測図 (1/60)

3 遺物

(1) 土器 (図版4、第7・8図)

1号土坑出土土器 (1～18)

1～18は弥生土器。1・2は壺。1は小壺の下半部片。底部は上底で、体部の最大径部に鈍い断面三角形の突帯が1条走る。2は無頸壺の口縁部。口縁上面はほぼ水平で、焼成前の穿孔が2つ見られる。風化が著しい。

3～11は逆「L」字状を呈する甕の口縁部。3～10は口縁部の上面が内傾する資料。内端部は7～10が突出し、外端部は丸みを持つか、やや尖るが、6・10は面を持つ。6・8の口縁下には三角突帯が確認できる。11は上面が水平なもの。内端部は僅かに突出し、外端部は丸く仕上げる。

12～16は底部。12は上方の開き具合や外面のヘラミガキから考えて壺であろう。13～16は甕であろう。上底で厚みを持つものが多いが、13は薄手。

17・18は高環の口縁部で、上面が外傾するもの。17は、内側が鋭く突出し、外端部は面を持つ。
18は、内側を丸く突出させ、外端部に面を持つもの。

2号土坑出土土器 (19・20)

19は弥生土器の器台の柱状部。屈曲は、外面にはないが、内面はしっかりと屈曲し稜を持つ。

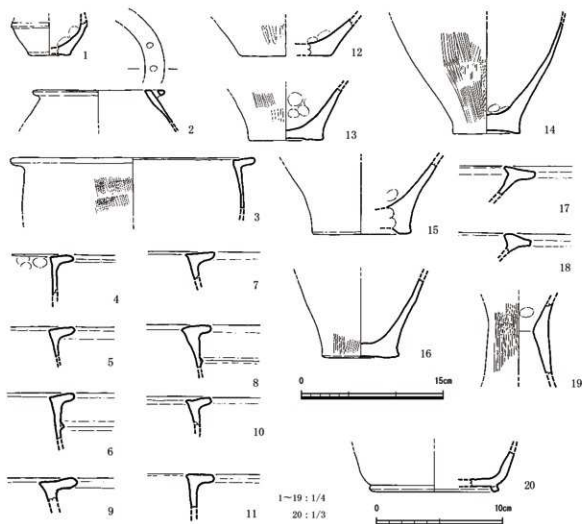
20は土師器の坏身で高台を持つ。調整は、ナデ調整する高台部を除き、摩擦のため不明。混入品であろう。

P 1 出土土器 (21)

21は弥生土器の壺の底部。やや上底で、外面はヘラミガキを施す。

P 2 出土土器 (22)

22は甕の口縁部で、小型品であろう。上面は水平で、内端部やや突出し、外端部は丸く仕上げる。外面はハケ目調整。



第7図 1・2号土坑出土土器実測図 (1/3・1/4)

P 3 出土土器 (23)

23は土師器の小皿。底部に板状圧痕を有する。口縁部に煤が付くため、灯明皿としての使用が考えられる。

P 4 出土土器 (24)

24は須恵器の蓋の小片。かえりは断面三角形である。

P 5 出土土器 (25)

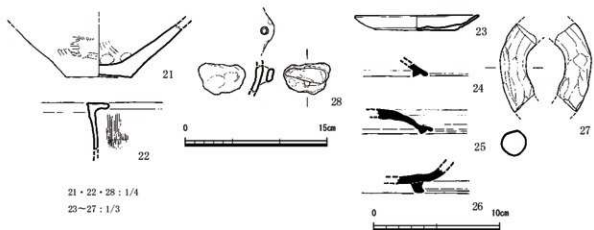
25は須恵器の蓋の破片資料。かえりの断面は三角形。

P 6 出土土器 (26・27)

26は須恵器の坏身片。高台はやや内側に貼り付けられる。27は陶器の把手ないし脚部か。手握ねにより成形され弧を描く。緑灰色の釉が見られるが、一方の面だけが目立つ。

攪乱出土土器 (28)

28は攪乱から出たため、詳細は不明だが、胎土や質感は弥生土器や土師器に近い。耳状の把手を持ち小さな孔を穿つ。



第8図 ビット等出土土器実測図 (1/3・1/4)

表 1 10 次調査出土土器観察表

() は復元値 [] は残存値

番号	探検区	種別	出土位置	法量 ①口径×器高 (cm) ②底径	残存 状態	調整及び特徴	備考
1	第7区 探検4	盃	1号土坑	② (4.0)	胴部・底面 1/2	調整は外面ナデ、内面ナデ・指痕。 胎土は粗砂粒・赤色粗砂粒を多く含む。 焼成は良好。色調は外面黒褐色、内面黒灰色。	
2	第7区 探検4	盃	1号土坑	① (14.0)	口縁部 1/3	調整は口縁部コナダテ、内面ナデテ。 胎土は粗砂粒を多く含む。雲母を少量含む。 焼成は良好。色調は内外面ともに黒褐色。	
3	第7区 探検4	甕	1号土坑	① (26.0)	口縁部 1/6	調整は外面ハケ目・背長ナデ、口縁部・内面ともにコナダテ。 胎土は粗砂粒・赤色粗砂粒を多く含む。雲母を含む。 焼成は良好。色調は内外面ともに黒色。	
4	第7区 探検4	甕	1号土坑	—	口縁部片	調整は外面磨滅により不明。内面指痕・コナダテ。 胎土は粗砂粒を少量含む。 焼成は良好。色調は外面黒褐色、内面黒色。	
5	第7区 探検4	甕	1号土坑	—	口縁部片	調整は内外面ともに磨滅により不明。口縁部ナデ・コナダテ。 胎土は粗砂粒を少量含む。 焼成は良好。色調は内外面ともに黒色。	
6	第7区 探検4	甕	1号土坑	—	口縁部片	調整は内外面ともにコナダテ。 胎土は粗砂粒を少量含む。高筒状。雲母を含む。 焼成は良好。色調は外面黒褐色～灰色、内面灰色。	
7	第7区 探検4	甕	1号土坑	—	口縁部片	調整は外面コナダテ、内面磨滅により不明。 胎土は粗砂粒を多く含む。礫を含む。 焼成は良好。色調は外面黒褐色～黒色、内面黒色。	
8	第7区 探検4	甕	1号土坑	—	口縁部片	調整は不明。 胎土は粗砂粒を多く含む。 焼成は良好。色調は内外面ともに黒色。	
9	第7区 探検4	甕	1号土坑	—	口縁部片	調整は口縁部コナダテ、上唇ナデ・ナデ。 胎土は粗砂粒・赤色粗砂粒を多く含む。雲母を含む。 焼成は良好。色調は外面黒褐色～黒色、内面黒灰色。	
10	第7区 探検4	甕	1号土坑	—	口縁部片	調整は口縁部コナダテ、内面コナダテ・ナデ。 胎土は粗砂粒を多く含む。 焼成は良好。色調は内外面ともに黒色。	
11	第7区	頸状土器	1号土坑	—	口縁部片	調整は外面コナダテ、内面不明。 胎土は赤色粗砂粒・雲母を多く含む。 焼成は良好。色調は内外面ともに黒褐色。	
12	第7区	盃	1号土坑	② (9.0)	底面 1/8	調整は外面ハケ目・背長ナデ、内面ナデ・指痕。 胎土は粗砂粒・雲母を多く含む。 焼成は良好。色調は外面黒褐色、内面赤黄灰色。	
13	第7区 探検4	甕	1号土坑	② 7.8	底面全存	調整は外面ハケ目・底面ナデ、内面指痕。 胎土は粗砂粒を多く含む。 焼成は良好。色調は内外面ともに黒色。	
14	第7区 探検4	甕	1号土坑	② 7.1	胴部・底面全存	調整は外面ハケ目・コナダテ、底面ナデ、内面ナデ・指痕。 胎土は粗砂粒を多く含む。雲母を含む。 焼成は良好。色調は外面黒褐色、内面黒色。	
15	第7区 探検4	甕	1号土坑	② (10.0)	底面 1/4	調整は外面不明、内面ナデ・指痕。 胎土は粗砂粒・赤色粗砂粒を少量含む。 焼成は良好。色調は外面黒褐色、内面黄灰色。	
16	第7区 探検4	甕	1号土坑	② 8.1	底面全存	調整は外面ハケ目、底面ナデ、内面ナデ。 胎土は粗砂粒を少量含む。 焼成は良好。色調は内外面ともに黒色～黒褐色。	
17	第7区 探検4	高坏	1号土坑	—	口縁部片	調整は口縁部コナダテ。 胎土は粗砂粒を少量含む。 焼成は良好。色調は内外面ともに黒褐色。	
18	第7区	高坏	1号土坑	—	口縁部片	調整は口縁部コナダテ、ナデテ。 胎土は粗砂粒を少量含む。 焼成は良好。色調は外面黒褐色～淡黄褐色、内面黒褐色。	
19	第7区	器台	2号土坑	—	柱状部 1/3	調整は外面ハケ目、内面磨滅・ナデ。 胎土は粗砂粒を多く含む。雲母を含む。 焼成は良好。色調は内外面ともに黒褐色。	
20	第7区	坏身	2号土坑	③ 高径 (10.0)	胴部・底面 1/3	調整は内外面ともに不明。裏面ナデテ。 胎土は粗砂粒・黒色粗砂粒を少量含む。 焼成は良好。色調は内外面ともに黒褐色。	
21	第8区 探検4	盃	P 1	② (7.0)	底面 1/3	調整は外面ハケ目・背長ナデ、内面ハケ目・指痕。 胎土は粗砂粒を多く含む。雲母を含む。 焼成は良好。色調は内外面ともに黒色。	
22	第8区 探検4	盃	P 2	—	口縁部片	調整は外面ハケ目・背長ナデ・ハケ目、口縁部コナダテ。 内面ナデ。胎土は粗砂粒を少量含む。雲母を含む。 焼成は良好。色調は内外面ともに黒褐色。	
23	第8区 探検4	小皿	P 3	① 9.8 ② 1.2 ③ 6.5	完整	調整は外面ナデ、底面板状直。口縁部ハケ目・内面不定 方向ナデ。胎土は粗砂粒・赤色粗砂粒を少量含む。雲母を含む。 焼成は良好。色調は外面赤褐色、内面黄灰色。	スス付着
24	第8区	坏蓋	P 4	—	口縁部片	調整は口縁部コナダテ。 胎土は粗砂粒を多く含む。 焼成は良好。色調は外面灰色、内面黄灰色。	
25	第8区	坏蓋	P 5	—	口縁部片	調整は外面ハケ目・背長ナデ。口縁部ハケ目・内面不定方 向のナデ。胎土は粗砂粒を多く含む。 焼成は良好。色調は内外面ともに黒色。	
26	第8区	坏身	P 6	—	坏身片	調整は外面ハケ目・背長ナデ、内面ナデ。 胎土は粗砂粒を少量含む。 焼成は良好。色調は内外面ともに黒褐色。	
27	第8区 探検4	不明	P 6	縦 7.0 横 2.9 厚 3.2 0.5	破片	質地は赤褐色でわずかに気泡有るが全々。 調整は一部灰色で若干スス。細孔・貫入有り。 焼成は良好で明確。	
28	第8区 探検4	不明	甕址	—	耳部片	調整は内面ナデ・指痕。穿孔有り。 胎土は粗砂粒を多く含む。 焼成は良好。色調は外面黒褐色、内面黒褐色。	穿孔有り

IV 11次調査の内容

1 調査の概要

今回発掘調査の対象としたのは、ガソリンスタンドのタンク部分のみである。確認調査の結果、現地表面から110～140cmで遺構が確認され、タンク部分のみ遺構に影響を与える可能性があった。しかし、対象地内に集合住宅が2棟建っていたために、場所によっては遺構が破壊されている可能性も考えられた。

重機を使用し表土を除去すると、調査区の中央部はその大半が南北方向に攪乱を受けていた。しかし、攪乱を受けた部分の下からピットをいくつか検出することができた。調査区の東部と西部で遺構を確認し、土坑2基、掘立柱建物跡1棟、ピットを検出した。遺物は、包含層より須恵器、土坑からは弥生土器、ピットからは弥生土器や須恵器が出土した。掘立柱建物跡は攪乱によって柱穴が削平されたところもあったが、攪乱の下で検出されたものもあり、1間×1間を確認した。ピットの中には、形状や深さから掘立柱建物跡の柱穴の一つと考えられるものもあり、掘立柱建物跡が調査区外に広がる可能性が考えられる。今回の調査は対象面積が狭い上に後世の攪乱が多く、遺跡の規模や性格が明らかとならなかったが、周辺の遺跡を検討する上で貴重な調査となった。

2 遺構

(1) 土坑

1号土坑 (図版6-(1)、第10図)

1号土坑は調査区北部で検出した。1号土坑の西部は攪乱の影響を受けている。大きさ1.1×1.2mを測り、平面形は不整形である。北壁から中央部に向かって中段を有する。土坑の底でピットが検出されており、最深部は0.6mである。土坑の上層部で弥生土器が出土した。

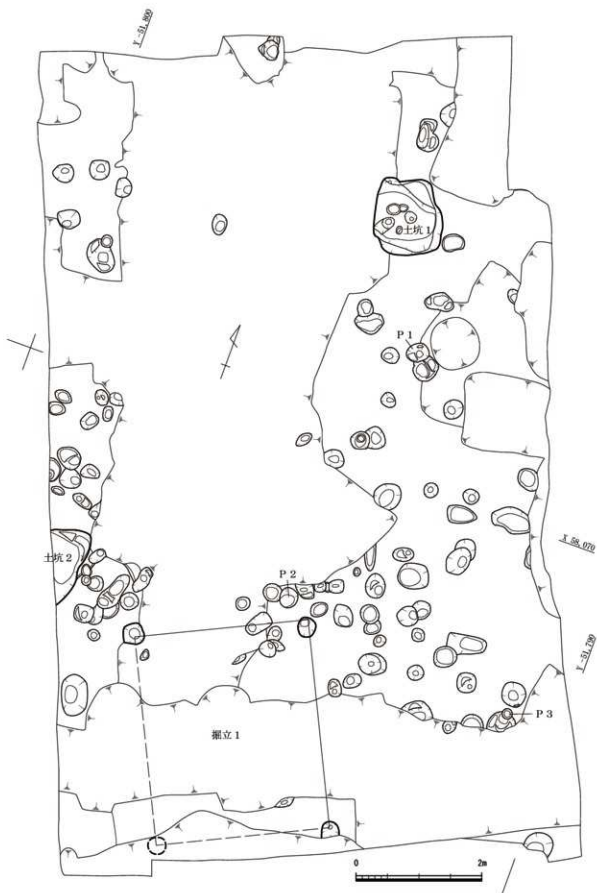
2号土坑 (図版6-(2)、第10図)

2号土坑は調査区西部際で検出した。大きさ1.15×0.58m、深さ最大0.6mを測り、平面形は不整形である。この土坑は調査区外に続くものである。土坑からは弥生土器が出土した。

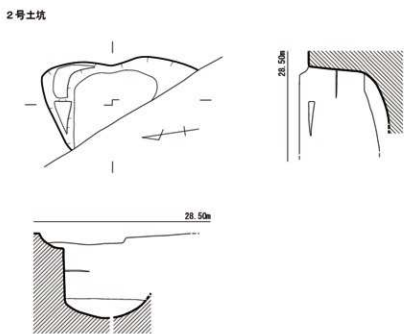
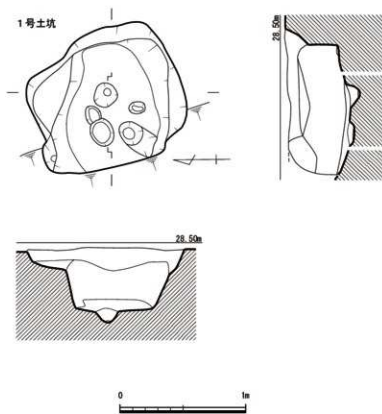
(2) 掘立柱建物跡

1号掘立柱建物跡 (図版6-(3)、第11図)

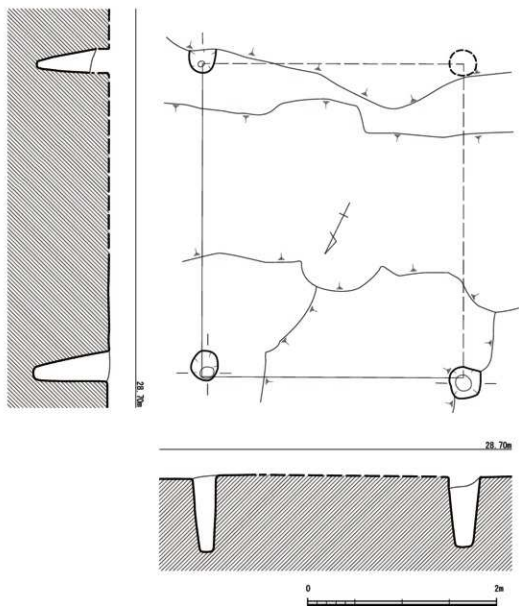
1号掘立柱建物跡は調査区南部で検出した。2つの柱穴は後世の攪乱を受け、そのうち1つは消滅



第9図 寺田・長崎遺跡11次調査遺構配置図 (1/60)



第 10 图 1·2号土坑实测图 (1/30)



第11図 1号掘立柱建物跡実測図 (1/40)

していた。1間×1間の4本柱の建物で、桁行3.2m、梁間2.75mで、桁行方向はN-25°-Wをとる。柱掘方は円形に近い形をしており、径は0.3m前後、深さは0.7m程度である。

柱穴からの遺物はなかった。

(3) ビット

調査区の東部や西部で、遺構面や攪乱の下からビットを検出し、その半数から弥生土器や須恵器が出土した。ビットの中には、深さ約0.7mのビットがいくつか確認されている。

3 遺物

(1) 土器 (図版7、第12・13図)

1号土坑出土土器 (1・2)

1・2は弥生土器である。1は壺。1条の三角突帯を持つ胴部片である。外面にヘラミガキを施し、内面は工具痕の他指頭痕がつく。2は甕。口縁部の破片資料。内外面はナデ調整を施す。

2号土坑出土土器 (3~6)

3~6は弥生土器である。3は壺。口縁部から頸部にかけて残っており、端部には刻み目、頸部はハケ目調整を施す。頸部と胴部の境に突帯を付す。4~6は甕。4・5は口縁部破片資料。4は、内口縁はやや尖り、外口縁は丸みを帯びる。外面にハケ目調整が残る。5は摩滅しており調整不明である。6は底部片で、やや上げ底である。外面にハケ目調整を施す。

P1出土土器 (7・11)

7は甕の口縁部片資料。内外面ともに摩滅のため調整不明。11は円筒状の土器と考えられる。残存は胴部から底部の一部であり、胴部には三角突帯を付す。内外面ともに化粧土が施され、外面は突帯を含めて横に、内面は縦にヘラミガキを施す。

P2出土土器 (8)

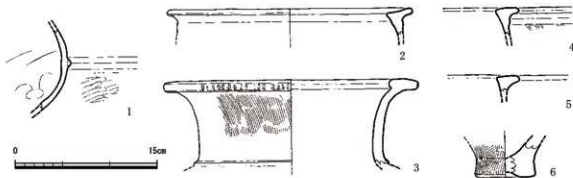
8は甕で、口縁部の破片資料。外面はハケ目調整、内面はナデ調整を施す。

P3出土土器 (14)

14は須恵器の高台付坏身。体部の一部から底部にかけての破片資料。調整は、体部は回転ナデ、底部内面は不定方向のナデ。底部はヘラで切り離したのち、高台をつけ、回転ナデで調整する。

包含層出土土器 (12・13・15)

12と13は須恵器の皿で、口縁部から底部にかけての破片資料。12の体部は回転ナデ、底部内面はナデ、底部外面は回転ヘラ削り後ナデ。13の体部は回転ナデ、底部内面は不定方向のナデ、底部外面はヘラ削り後ナデ。15は、須恵器の高台付坏身。体部の一部から底部にかけての破片資料。調整は、体部は回転ナデ、底部内面は不定方向のナデ。底部はヘラで切り離したのち、高台をつ

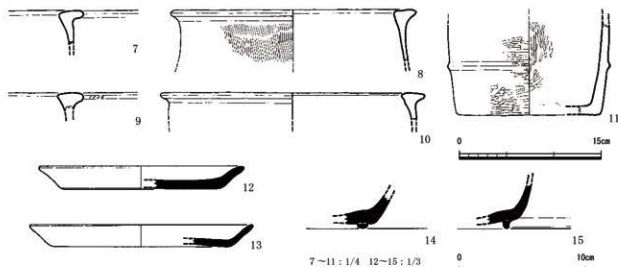


第12図 1・2号土坑出土土器実測図 (1/4)

け、回転ナデで調整をしている。

遺構検出時出土土器 (9・10)

9と10は弥生土器の甕の口縁部資料である。9は全体的に摩滅しているが、端部にキザミ目が残っている。10は、内面外面ともにナデ調整が施されている。



第13図 ピット等出土土器実測図 (1/3・1/4)

表2 11次調査出土土器観察表

() は元直径

番号	検出 図版	種別	出土位置	法量 ①口縁径 (cm) ②高さ	残存 状態	調整及び特徴	備考
1	第12図 図版7	甕	1号土坑	—	胴部片	調整は外面でナデ、内面(具痕?)ナデ・色調整。 粘土は黒・黒砂粒・赤色粒・赤色粘土・金雲母を多く含む。 焼成は良好。色調は内外面ともに深い黒褐色。	
2	第12図 図版7	甕	1号土坑	①(26.0)	口縁部1/6	調整は口縁部ココナデ、内面ナデム。 粘土は黒砂粒・黒色砂粒・赤色粘土・黒緑な金雲母を多く含む。 焼成は良好。色調は内外面ともに深い黒褐色。	
3	第12図 図版7	甕	2号土坑	①(27.0)	口縁部1/6	調整は外面ハケ目・ココナデ、口縁部ナデ目・ココナデ、 内面不明。粘土は黒砂粒・黒色砂粒・赤色粘土・金雲母を多く含む。 焼成は良好。色調は外面暗褐色、内面明赤褐色。	
4	第12図 図版7	甕	2号土坑	—	口縁部片	調整は外面ハケ目ナデ、口縁部・内面ともにココナデ。 粘土は黒砂粒・黒色砂粒・黒色粘土・金雲母を含む。 焼成は良好。色調は内外面ともに黒褐色。	
5	第12図 図版7	甕	2号土坑	—	口縁部片	調整は不明。 粘土は黒砂粒・赤色粘土を多く、金雲母を少量含む。 焼成は良好。色調は外面淡褐色～淡褐色、内面淡明赤色。	
6	第12図 図版7	甕	2号土坑	③(6.4)	底部1/2	調整は外面ハケ目、底面及び内面ナデ。 粘土は黒砂粒・赤色粘土・金雲母を多く含む。 焼成は良好。色調は外面に深い褐色、内面暗灰色。	
7	第13図 図版7	甕	P1	—	口縁部片	調整は外面ナデ、口縁部ココナデ。 粘土は黒砂粒・黒色砂粒を多く含む。 焼成は良好。色調は内外面ともに淡黒褐色。	
8	第13図 図版7	甕	P2	①(26.0)	口縁部1/7	調整は外面ハケ目、口縁部ココナデ、内面ナデ。 粘土は黒砂粒・黒色砂粒・赤色粘土・金雲母を多く含む。 焼成は良好。色調は内外面ともに深い褐色。	
9	第13図 図版7	甕	遺構検出時	—	口縁部片	調整は口縁部ナデ目・ミギキ・ココナデ。 粘土は黒砂粒を少量含む。焼成はやや不足。 色調は外面暗灰色～灰色、内面淡褐色～灰色。	
10	第13図 図版7	甕	遺構検出時	①(26.0)	口縁部1/7	調整は内外面ともにナデ。口縁部ココナデ。 粘土は黒砂粒・白色粘土・黒色粘土・赤色粘土を含む。 焼成は良好。色調は内外面ともに深い褐色。	
11	第13図 図版7	甕状土器	P1	①(15.0)	全体の1/6	調整は外面でナデ、底面ナデ、内面(ナデ?)ナデによるナデ。 粘土は黒砂粒・黒色砂粒を多く含む。 焼成は良好。色調は外面暗褐色～淡褐色、内面暗褐色～淡褐色。	
12	第13図 図版7	甕	包含層	①(16.0) ②(13.0)	全体の1/2	調整は口縁部ナデナデ。底面ナデへ切り成すナデ、内面ナデ。 粘土は黒砂粒を少量含む。焼成はやや不足。 色調は外面暗灰色～灰色、内面淡褐色～灰色。	
13	第13図 図版7	甕	包含層	①(18.0) ②(14.8)	全体の1/4	調整は口縁部ナデココナデ。底面へ切り成すナデ、内面不定方向ナデ。 粘土は黒砂粒をわずかに含む。 焼成は良好。色調は内外面ともに淡褐色～灰色。	
14	第13図 図版7	坏身	P5	—	高台部片	調整は外面ナデナデ。高台部へ切り成すナデ・回転ナデ、 内面ナデナデ・不定方向ナデ。粘土は黒砂粒を含む。 焼成は不足。色調は外面淡褐色～灰色、内面淡褐色。	
15	第13図 図版7	坏身	包含層	—	高台部片	調整は外面ナデナデ。高台部へ切り成すナデ・回転ナデ、 内面ナデナデ・不定方向ナデ。粘土は黒砂粒を含む。 焼成は良好。色調は内外面ともに淡褐色。	

V まとめ

寺田・長崎遺跡はこれまで11次にわたる調査が行われている。遺跡の北部に位置する7次調査では、弥生時代中期前半の竪穴建物跡、中期末の甕棺墓、古墳時代後期を中心とする掘立柱建物跡を確認した。竪穴建物跡のなかには、円形プランで大きさは直径10mを超えるものがある。7次調査地に隣接する8次調査では、弥生時代中期前半の竪穴建物跡や集落を直線的に区画すると考えられる溝、中期末の甕棺墓をはじめとする墳墓群を確認した。調査区北部壁際で確認された竪穴建物跡は円形プランをしており、復元すると直径10mを超える。墳墓群は調査区北西隅で確認しており、溝の埋没後に墓地が形成されたようである。8次調査地の東に隣接する6次調査では、弥生時代中期の竪穴建物跡や溝、土坑を確認した。6～8次調査は、それぞれ調査区北部壁際に遺構を確認していることから、北に集落や墓地が広がる可能性がある。一方で、遺跡の南部に位置する9次調査では、上白水館跡の周辺部と考えられる中世の遺構を確認した。本遺跡は、遺跡の北部を中心に弥生時代中期を主体とする集落が、遺跡の南部では中世の遺構が確認されたことから、弥生時代から中世にかけての複合遺跡である。

今回報告した10次調査地は、7次調査地の東側に接している。7次調査の東部で調査区外にのびる掘立柱建物跡を数棟確認していることから、掘立柱建物跡がさらに広がる可能性が考えられている。調査区東部で掘立柱建物跡を1棟、調査区中央と西部で土坑を2基、調査区内全体でピットを多数検出した。出土した土器から、掘立柱建物跡は弥生時代、1・2号土坑は弥生時代中期の所産である。また、調査区全体で確認したピットから、弥生土器片のほかに歴史時代に帰属する須恵器片や土師器を確認した。調査区西隅付近に大形のピットがいくつか確認されたことで、掘立柱建物跡が調査区外に広がるのが推測される。

11次調査地は、8次調査地の南側に位置する。調査区の広い範囲で遺構が破壊されており、主に調査区の西部と南東部から東部にかけて掘立柱建物跡1棟、土坑2基を確認した。遺構面の土層で包含層を確認し、そこからは歴史時代の須恵器が出土した。1・2号土坑は弥生時代中期前半の所産である。また、ピットから弥生土器や須恵器などを確認した。1号掘立柱建物跡については、柱の掘方が直径0.3mと小さく、土器が確認されなかったため詳細な時期は不明である。

10・11次調査地は調査面積が狭く、特に11次調査地は、調査区内の広い範囲で遺構が破壊されていたため遺跡の全容を把握するに至らなかったが、このような状況でも弥生時代中期の遺構を確認することができた。これにより、6～8次調査で確認された弥生時代の集落がさらに南に広がるのが明らかとなった。この集落の広がりについてさらなる調査に期待したい。

图 版

10 次調査



(1) 調査区全景 (東から)



(2) 調査区全景 (東から)



(1) 1号土坑土層 (北から)

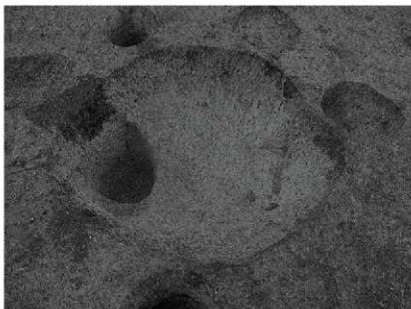


(2) 1号土坑土器出土状態 (北から)

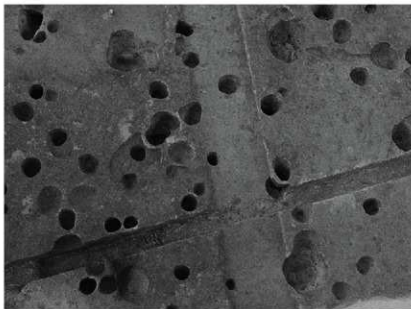


(3) 2号土坑土層 (西から)

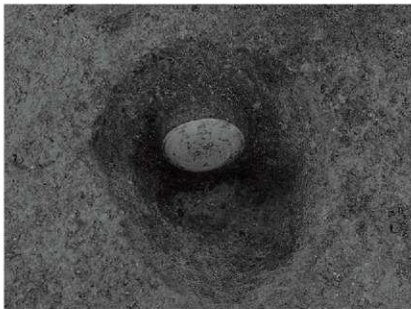
(1) 2号土坑完掘状態(東から)

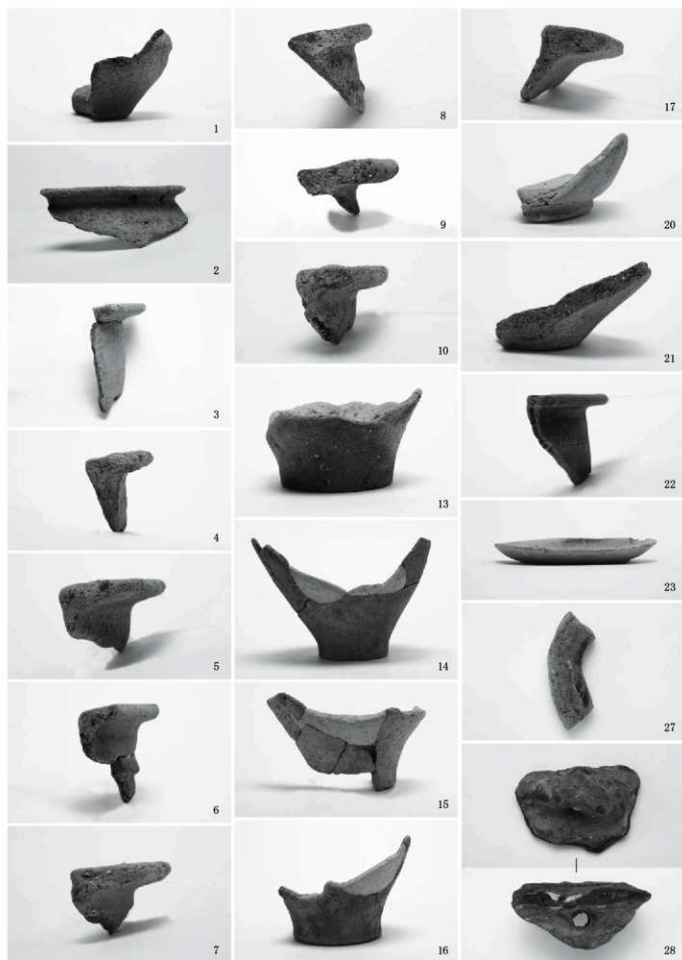


(2) 1号掘立柱建物跡(東から)



(3) P3土器出土状態(西から)





10次調査出土土器

11 次調査



調査区全景（上が北）



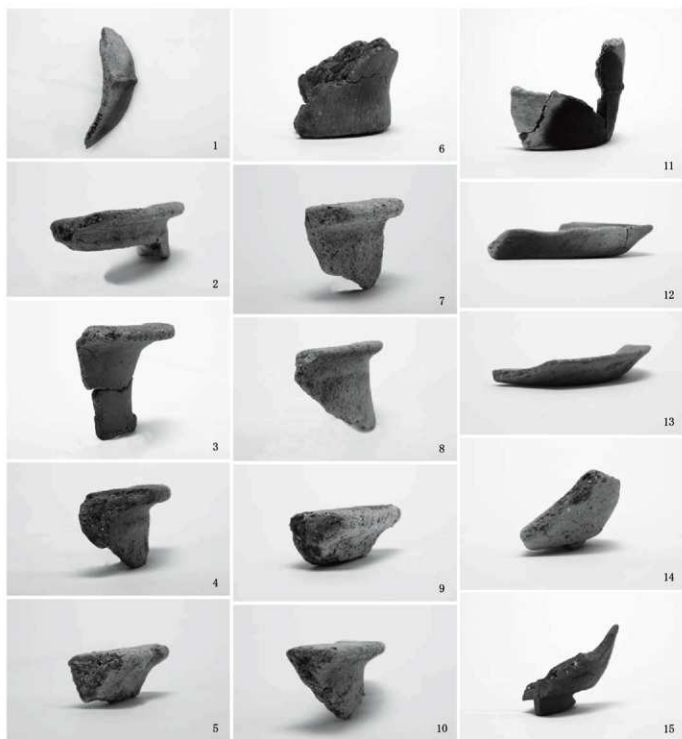
(1) 1号土坑完掘状態 (上が北)



(2) 2号土坑完掘状態 (上が西)



(3) 1号掘立柱建物跡 (上が北)



11次調査出土土器

報告書抄録

ふりがな	てらだ・ながさきいせき じゅうじ・じゅういちぢょうさ							
書名	寺田・長崎遺跡 - 10次・11次調査-							
副書名	福岡県春日市下白水南所在遺跡の調査							
シリーズ名	春日市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第88集							
編著者名	井上義也・熊埜御堂早和子							
編集機関	春日市教育委員会							
所在地	〒816-0804 福岡県春日市原町3丁目1番地5 TEL. 092-584-1111							
発行年月日	2021年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積 ㎡	発掘原因
		市町村	遺跡番号					
てらだ・ながさきいせき 寺田・長崎遺跡 10次調査	ふくおかけんかみづがししもしらうずみなみ 福岡県春日市下白水南	40218		33°31'20"	130°26'31"	20041202 \	174.16	記録保存調査
てらだ・ながさきいせき 寺田・長崎遺跡 11次調査	ふくおかけんかみづがししもしらうずみなみ 福岡県春日市下白水南	40218		33°31'20"	130°26'32"	20200203 \	111.0	記録保存調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
てらだ・ながさきいせき 寺田・長崎遺跡 10次調査	集落	弥生時代 歴史時代	掘立柱建物跡 1棟 土坑 2基	弥生土器・須恵器・ 土師器・陶磁器	弥生時代の掘立柱建物跡、土坑と、 弥生時代、歴史時代のビットなどを 検出。			
てらだ・ながさきいせき 寺田・長崎遺跡 11次調査	集落	弥生時代 歴史時代	掘立柱建物跡 1棟 土坑 2基	弥生土器・須恵器	弥生時代の土坑と、弥生時代、歴 史時代のビットなどを検出。			
要約	<p>寺田・長崎遺跡は春日丘陵西側の中位段丘上に立地する。遺跡の北部に位置する7・8次調査では、弥生時代中期の竪穴建物跡や土坑、溝などを確認している。中でも特筆されるのは、7・8次調査で確認された直径10mを超える大形で円形の竪穴建物跡であり、弥生時代中期前半に比定される。また、7次調査の北東部や8次調査の北西部では、甕棺墓や土壇墓、木棺墓などの墳墓群が確認されており、弥生時代中期末には墓地が形成される。</p> <p>10次調査では、弥生時代の掘立柱建物跡1棟、弥生時代中期の土坑2基と多数のビットを確認した。大形のビットは1号掘立柱建物跡以外にもいくつか確認され、掘立柱建物跡が調査区外まで延びる可能性が考えられる。11次調査では、調査区内の広い範囲で後世の擾乱を受けたが、調査区の西部と南東部から東部で掘立柱建物跡1棟、弥生時代中期の土坑2基と多数のビットを確認した。</p> <p>今回の調査は調査面積が狭く、特に11次調査に関しては調査区内の広い範囲で後世の擾乱を受けていたため、遺跡の全容を把握するに至らなかったが、弥生時代中期の遺構を確認でき、集落の広がりを検討する上で貴重な調査となった。</p>							

寺田・長崎遺跡

—10・11次調査—

春日市文化財調査報告書 第88集

2021年3月31日

発行 春日市教育委員会
福岡県春日市原町3丁目1番地5

印刷 大道印刷株式会社
福岡県春日市日の出町6丁目23
